

## 欠損歯列を読む：治療結果に影響する因子を探る

宮地 建夫<sup>a</sup>, 前田 芳信<sup>b</sup>

### How to Evaluate the Partially Edentulous Dental Arch? —Factors Influencing the Prognosis and Outcome with Prosthodontic Interventions—

Tateo Miyachi, DDS, PhD<sup>a</sup>, Yoshinobu Maeda, DDS, PhD<sup>b</sup>

#### I. 本セッションのねらい

これまで欠損歯列に関しては、ややもすると補綴装置の選択や設計・製作方法が話題の中心となってきた。しかし、長期に経過を観察すると同様な欠損形態を呈する場合に同様な処置しても異なった経過を示す場合があること、欠損が次第に急速に拡大する場合としない場合があることなどに気づく。

このことは治療に着手する以前に、本来は現状の欠損歯列がどのような病態レベルにあつて、今後どのような状態に向かおうとしているか、避けなければならない事態とは何か、といった欠損歯列の臨床的評価を先行しなければならないことを意味している。欠損歯列の病態とその成因ならびに増悪に寄与する因子を把握すれば、治療後の推移と変化への効果的な対処を予測できる。ただ、残念ながら実際には有効な評価法や指標がまだ明確に確立されているとは言い難い。

そこで、本セッションではどのように「欠損歯列を読む」べきかをテーマとして採りあげ、各経過観察や臨床データから欠損歯列の臨床的評価において有効な評価法や指標を明らかにすることを試みた。

#### II. セッションのまとめ

本セッションではどのように「欠損歯列を読む」べきかをテーマとして採りあげ、各経過観察や臨床データから欠損歯列の臨床的評価において有効な評価法や指標

を、各演者が提示した内容に沿ってまとめると以下のようになる。

##### 1. 欠損歯列の何を読むか？

この点に関してはすべての演者が、

- ①患者の現在の病態評価
- ②欠損進行のリスク予測

の観点から、それぞれの症例について判断を下していることが明になった。

##### 2. どんな視点で欠損歯列を読むか？

どの点に注目して評価しているのかについては、

- ①経過観察で補綴装置の評価指標を掴み、欠損歯列を読む（前田）
- ②難易度を臨床評価し、そこから欠損歯列を読む（鷹岡）
- ③リスク因子を仮定し臨床疫学的視点で追求しリスク予測に役立てる（牛島）
- ④代償性機能に注目しその影響度を調査、欠損歯列の読みの一視点とする（森本）

とやや異なった視点で読んでいることが明らかになった。

##### 3. 重要と思う評価指標は何か？

評価指標のなかで重要視するものについては、

- ①適合・外形・咬合・剛性（前田）
- ②歯列単位の評価、歯牙単位の評価、力の評価（鷹岡）
- ③咬合支持の数、左右歯数のインバランス（牛島）

<sup>a</sup> 東京歯科大学

<sup>b</sup> 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座歯科補綴学第2教室

<sup>a</sup> Tokyo Dental College

<sup>b</sup> Department of Prosthodontics, Gerodontology and Oral Rehabilitation, Osaka University Graduate School of Dentistry

④咀嚼中心や咀嚼運動の変化，力の集中・偏在(森本)

④咀嚼習慣やトラブル部位で症例の個別性を掴む(森本)

4. 評価指標の重要度(影響度)は個別性のなかで、  
何によって左右されるか？

①欠損拡大や経過の速度(前田)

②歯列・歯牙・力に個別要素のプライオリティーがある(鷹岡)

③初期欠損，中期欠損，多数歯欠損といった欠損進行で影響度が異なる(牛島)

---

著者連絡先：前田 芳信

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-8

Tel: 06-6879-2952

Fax: 06-6879-2957

E-mail: ymaeda@dent.osaka-u.ac.jp